



1992年度気象研究所研究発表会開催案内

気象研究所では、研究発表会を以下のとおり開催しますので、関心をお持ちの方は、奮ってご来場ください。

1. 日時：1992年12月1日（火）9：45～16：30
2. 場所：気象研究所講堂
3. プログラム：

《午前》

- (1) 大気乱流の風洞内再現
- (2) ウィンドプロファイラによる大気現象の解析
- (3) 野外における地震発生の模擬実験—実験概要と地殻変動観測—
- (4) 野外における地震発生の模擬実験 —地震観測による破壊過程の追跡—

《午後》

- (5) 降水情報を数値予報モデルに導入する初期値化手

法

- (6) 本州上空での低気圧発達に及ぼす山岳の効果—1990年12月11日の低気圧の事例解析—
- (7) スーパークラウドクラスターの東進に関する簡単な数値モデルによるアプローチ
- (8) 大気ブロッキング現象のモドン模型の線形安定性
- (9) 地球を巡る物の流れ —数値シミュレーション—
- (10) 海洋における人工放射能の生物地球化学的挙動
- (11) 北太平洋表層循環系の季節・経年変動に関する数値実験

事務局 気象研究所企画室

〒305 つくば市長峰 1-1

TEL. 0298-51-7111

日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所	備 考
第29回自然災害科学総合シンポジウム	1992年11月4日	重点領域「自然災害」総合研究班	秋田市文化会館（秋田）	Vol. 39, No. 4
第11回日本自然災害学会学術講演会	1992年11月5日～6日	日本自然災害学会	秋田市文化会館（秋田）	Vol. 39, No. 4
国際防災会議 千葉'92	1992年11月27日～30日	国際防災の10年推進本部他	幕張メッセ国際会議場（千葉）	
第33回大気汚染学会	1992年12月1日～3日	大気汚染学会	大阪国際交流センター（大阪）	
第12回風工学シンポジウム	1992年12月3日～4日	シンポジウム運営委員会	建築会館ホール（東京）	Vol. 38, No. 12
第42回応用力学連合講演会	1993年1月26日～28日	学術会議力学研究連絡委員会, 応用物理学会他	日本学術会議（東京）	
「オホーツク海と流水」国際シンポジウムおよび国際宇宙年・極域水圏ワークショップ	1993年1月31日～2月5日	オホーツク海・水海研究グループ, 宇宙開発事業団, 欧州宇宙機関, 紋別市, 北方圏センター	紋別市民会館・文化会館（紋別）	
日本農業気象学会1993年度大会	1993年4月1日～3日	日本農業気象学会	お茶の水女子大（東京）	
第25回国際水理学会会議	1993年8月30日～9月3日	第25回国際水理学会会議国内組織委員会, 土木学会	京王プラザホテル（東京）	



教官の公募について

記

1. 所属学科目：環境科学
2. 授業科目：総合科目の環境科学，自然の分野の地学（上記授業の他に学部・大学院の関連専門科目の担当をお願いすることもあります）
3. 研究分野：地学の領域からの環境研究，とくに第四紀以降の地球環境の変遷（現在の環境問題の理解，問題解決への志向のつよい研究者が望ましい）
4. 職名および人員：教授，助教授または講師 1名
5. 採用予定年月日：1993年4月1日
6. 応募資格：博士の学位を有する者，またはこれと同等以上の学識を有する者
7. 提出書類：以下(1)～(5)の書類を各1部
 - (1) 履歴書（研究歴，教育歴を明記して下さい）
 - (2) 研究業績リスト（主要なものの3点に○印を付けて下さい）

い)

- (3) 主要著書・論文（コピーでも可）
- (4) 研究計画書（これまでの研究経過および研究・教育計画の要約3,000字以内）
- (5) 学会活動および社会における活動のリスト

8. 応募書類締切日：1992年11月20日（金）必着

9. 応募先：〒310 水戸市文京 2-1-1

茨城大学教養部長 古井 伸哉

応募書類は「書留」とし、『環境科学』と朱書して下さい。応募についてのお問い合わせは，教養部庶務係
Tel. 0292 (26) 1621 (内線 523) Fax. 0292 (27) 0960
まで

付記

1. 選考は，当教養部「教員選考細則」により，公正に行い，選考の結果は決定次第通知します。
なお，選考過程で面接を行うことがあります。
2. 現在本学においても，大学改革および教養部改革が検討されております。意欲のある方を望みます。

編集後記：編集委員になったこともあって、「天気」に掲載された最初の記事を知りたくなり，図書館であらためてみました。創刊号の巻頭記事は福島要一氏の「気象を通じて美しい世界を作ろう」と題する論説でした。

福島氏は，気象の影響を克服した理想の環境の獲得について論じているのですが，このなかに「より小さい気象条件が，人間の力である程度克服し得るとしたら，より大きな気象条件だって人間の力で変えられない筈がない。」という部分があります。

人間活動が原因とされる，地球の温暖化・オゾン層破壊・酸性雨などにより「大きな気象条件」が変化しつつある現状が40年前のこの言葉とオーバーラップしますが，これらの問題を克服してこそ真に人間の力といえるでしょう。「天気」も問題解決のお役に立てば幸いです。

今年の4月から編集委員になり，研究機関めぐりを担当しています。よろしくお願いします。

（井上長俊）